

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 11 No.19 2009年10月15日号

編集:[editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告:[pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2009 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

ニューロネット、SNS、Web 画面共有、VoIP、ビデオチャット、ホワイトボードが一体化した Web コラボレーションサービスを SaaS ベース 低コストで提供

「既存の遠隔会議システムは、一時的なミーティングの場を提供するのみに特化しており、人と人とのつながりといったグループや組織という観点から会議の成果物やそれによる知の蓄積が難しかった。しかし、会議の成果は次の会議の成果を生む種だ。蓄積をしっかり行っていくことで次ぎの会議の生産性や創造性が高まると考えている。そのためのシステムを考えた。また高額では導入できる企業が限られてくる可能性があるため、ワンコインという低コストで利用できるサービス形態での提供とした。それが SaasBoard だ。」(ニューロネット)

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)が開発した SaasBoard の特長は、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)といった情報蓄積系のシステムに、Web 画面共有、ホワイトボード、そして IP 電話やビデオチャットなどのリアルタイムコミュニケーションを一体化させたところに特長がある、SaaS ベースの Web コラボレーションサービス。ニューロネットは、2009年10月よりサービスを本格開始した。

「Web 会議と称して提供されている類似のサービスの多くは“会議室型”すなわち TV 会議が Web に置き換わっただけのものが多く、単に会議の場を提供するにとどまっている。それでは、会議が終わればその会議でのアウトプットを蓄積するのが難しいのではないかと思っていた。」(ニューロネット)

それに対して、SaasBoard は「個人 ID 型」であり、個人が ID を持つことにより SaasBoard の世界にいれば、個人を基点に、さまざまな人とグループを作ることができ、それぞれ

のグループに応じて、誰とでも単にコミュニケーションが出来るだけでなく、資料や情報の蓄積・共有・参照も簡単に出来る。その点が SaasBoard と他の Web 会議システムとの違いだと同社では指摘する。

「会議室の数により、同時に会議できる数が制限される会議室型にくらべると、個人が自由にいつでも、誰でも会議が持てる個人 ID 型 SaasBoard は生産性やコスト削減効果も高く、Web コラボレーションと呼ばれ、今後の Web 会議の主流となると考えている。」(ニューロネット)

SaaSBoard は月額費用にて提供されるサービスであるため、ソフトウェアのダウンロードや、システムの管理はもちろん不要。インターネット接続、パソコン、主要なブラウザに対応し、指定された SaasBoard サイトにアクセスするだけでサービスの利用ができる。また、日本語サイト(.jp)と英語サイト(.com)を持ち、これらが相互に通信できることで、世界中での利用に対応している。

SaaSBoard は、SNS 機能を通して、人と人とのつながりをベースとしたグループを作成し、そのグループ毎の参加者が個別に作成した、あるいは、SaasBoard の Web 画面共有を通して作成された、資料や情報を蓄積することができる。もちろん、その資料に対するアクセス権も設定できる。

また SaasBoard の IP 電話やビデオチャット機能については、Skype との連動の他、ニューロネットが独自開発した音声と映像機能を提供している。Web 画面共有を行いながら、音声や映像でのコミュニケーションも同時に行えるようになっている。

SaaSBoard が提供する Web 画面共有の機能は、京都大学の久保田秀和氏(日本学術振興会特別研究員、現産業技術総合研究所)が2006年に Web 上で公開した Web

ページ作成ツール「PositLog」がベースになっている。

PositLog は、文章、写真、手書き、動画などを、付箋紙を貼り付けるようにホワイトボード上に自由に並べ貼り付けることができ、それをHTMLファイルとして保存し、インターネット上に公開すれば一般の Web ページのごとくインターネットに接続しているところからであればどこからでも参照できる。さらに、その HTML ファイルに対して書き込み権限があれば他の写真などを追加して貼り付けたり、テキストを書き込んだり修正を加えたりもできる。「PositLogは、2500本以上ダウンロード実績があるソフトウェアだ。その実績のあるホワイトボード的なソフトウェアに、SNS や映像と音声などを組み合わせられて開発されている。」(ニューロネット)



SaaSBoard-映像と音声によるミーティング例(ニューロネット資料)



SaaSBoard-資料共有例(ニューロネット資料)

SaaSBoard のホワイトボードは、PositLog の特長を引き継ぎ、テキスト、写真、動画(同社では、これらをスプライトと呼ぶ。)などPCで取り扱えるデータであればなんでも、ホワイトボード上のスペースのどこでも自由なかたちで貼り付けることができる。たとえば、Youtube のビデオクリップを貼り付ける

たり、またホワイトボード上に貼り付けられたスプライトにホームページのアドレス(URL)を設定したりすることもできる。「簡易な HTML エディタ的な性格ももっている。他のウェブ会議システムのホワイトボード機能とは違う点だと思う。既存のウェブ会議システムのホワイトボードであれば、GIFファイルなど画像による保存のため、修正や追加が難しいが、SaaSBoard のホワイトボードは、その点、簡単に入力が行える。また容易にイントラネット、インターネットなどに公開できるのも便利な点だと思う。」(ニューロネット)

さらに、ホワイトボードのスペースは広く使えるため、ホワイトボード上の入力作業を容易にするための、「スケール」や「マップ」の機能を提供している。

スケールは、電子地図の縮尺と同じで、スケールを上げるとホワイトボード上の細かいところまで見える。一方スケールを下げると、ホワイトボード全体を俯瞰できるようにするもの。また、マップは、スプライトや、その現在入力作業をおこなっているところが、ホワイトボード上のどの位置にあるのかを示すもの。仮に多くのスプライトをホワイトボード上に広い範囲で貼り付けたりしたとしても、スケールとマップで簡単にその位置を特定できるようになっている。「ホワイトボードのスペースは無限に取れるが、こういった機能を加えることで、操作性を高めた。」(ニューロネット)



SaaSBoard ホワイトボード画面：海外出張打ち合わせ例、ホワイトボード右下の方にスケールとマップが表示されている(ニューロネット資料)

さて、SaaSBoard を利用する場合、ビジネス向け(有償)と個人向け(有償版および無償版)から選択する。有償版では、同社が開発した音声とビデオチャット機能が提供さ

れ、個人向け無償版ではこれに代わり Skype がエンベッド（組み込み）されており、Skype で音声チャットが行えるようになっていた。

利用料金は、「パーソナル」、「エンタープライズ」、「メンバーシップ」の3種類で提供。パーソナルは、個人向け有料サービスで1IDから使用可能。月利用料金が980円固定で使い放題。

一方、企業および、学校・塾などの教育機関向けに提供するエンタープライズ、会員制組織形態に提供するメンバーシップは、初期費用が1IDあたり4,200円、月額使用料一人当たり980円固定。またオプション（別費用）で、ディスク容量追加、録画再生、画像帯域保証、SSL設置、サポート、コンサルティングなども提供する。各サービスの注文は、ニューロネットホームページから申し込み可能。2週間の無料トライアルも提供している。



#### SaaSBoard ホワイトボード画面：結婚寄せ書き例（ニューロネット資料）

SaaSBoard は、企業での社内コミュニケーションの効率化のために活用したり、Web 講義&Web セミナーでの遠隔聴講に活用したり、遠隔保守/カスタマーサービス、あるいは、コミュニティサイト、SNS 型掲示板などのサービスプラットフォームとしても使用できる非常に広い用途範囲に対応したサービスだと同社では説明する。

「コスト的には、エンタープライズやメンバーシップであっても、1ユーザアカウントあたり980円という低コストで、SNS からビデオチャット、Web 画面共有、ホワイトボードまで行える。この価格は他の類似サービスに比べても1/5~1/10という破格的な低価格だ。広くいろいろな方々に使って頂くこと

で沢山の人がつながり、ユーザの利便性が向上する。これを SaaSBoard の事業化にあたってサービスモデルの軸とした。」（ニューロネット）

同社代表取締役の前川博文氏は、産業総合技術研究所（産総研）でベンチャーの起業・指導を行い、2年間の任期を2008年3月に終え、ニューロネット株式会社を2008年4月設立。同年6月に前川氏が、元京都大学の久保田氏（現産総研）と、PositLogをベースにWeb上でのホワイトボード型コミュニケーションツールを共同で事業化したのが、SaaSBoardになる。

「SaaSBoard は、『いつでも、どこでも、誰とでも』インターネットやブラウザを通した Web コラボレーションが簡単に行えることが特長だ。そのためには、低コストの SaaS によるサービスモデルがユーザにとって最適だと考えた。今後は、SaaS の普及とともに、個々人の働き方も大きくかわると思う。そして個々人が生き活きとメンバーやグループの仲間とコミュニケーションしたり、コラボレーションしたりできる日がくると考えている。それを私たちは、SaaS ワーキングスタイル(SaaS Working Style)と呼んでいる。そういった時代に SaaSBoard は低コストの便利なツールとして沢山のユーザに活用していただきたい。そして私たちは Web 会議/ビデオ会議のデファクトスタンダードを目指したいと考えている。」（ニューロネット）

ニューロネットは、日本での展開をおこないつつ、今は、北米への進出も予定しているという。その後は、中国や欧州への展開も検討している。「すでに北米の某企業からも引き合いがきており、北米でのサービスプラットフォームとして SaaSBoard を検討していただいている。先行の Web 会議ベンダーよりも低コストで豊富で便利な機能を提供していきたい。同等もしくは、それ以上であれば SaaSBoard をユーザが選択してくれると期待している。」（ニューロネット）

## パイオニアソリューションズ、既発売の Cyber Conference System Prime と連動する一体型オールインワンの遠隔会議用エントリーモデルを発表

**Pioneer**



ユビキタス・ステーション  
**WWS-US1000**

### ユビキタス・ステーション(パイオニアソリューションズ資料)

パイオニアソリューションズ株式会社(東京都目黒区)は、遠隔会議用オールインワンエントリーモデル「Ubiquitous Station(ユビキタス・ステーション) WWS-US1000」を8月3日に発売。

同社では、すでに遠隔データ会議ソリューション「Cyber Conference System Prime(サイバーカンファレンスシステムプライム)」などを販売しているが、今回発表のユビキタス・ステーションで遠隔会議システムの製品ラインナップをさらに強化する。

ユビキタス・ステーションは、22型LCDタッチパネルディスプレイ、カメラを装備したパソコンをベースに、パイオニアソリューションズで開発した遠隔会議用のソフトウェア「CCS-Prime ソフト」をプリインストールした端末。またマイク&スピーカは、USB外付けタイプでクリアワン社製をセットした。

ユビキタス・ステーションの端末は、クライアント機能とサーバ機能を搭載し、外部の専用の多地点接続装置などを使用せずに、映像、音声、データ共有機能を使った最大4拠点までのピアツーピア接続による会議が行える。

一方、5拠点以上の場合、20拠点まで拡張可能な「専

用会議コントローラー」を追加することで対応する。すぐに参加者を呼び出してオンデマンドで会議も行えるし、また人数が多い場合は、事前に予約して行うことも可能だ。

その他遠隔会議用途だけでなく会議室内のスタンドアロンディスプレイとしても活用できる。「プレゼンテーション用の持ち回りのできるモバイルディスプレイとしても活用できる。」(パイオニアソリューションズ)

「ユビキタス・ステーションは、サイバーカンファレンスシステム・プライムの高性能なデータ会議の特長を引き継ぎながら、簡単導入、簡単接続、簡単操作を特長とする。簡単に端末セットアップが行え、会議が開始できること、その上、会議中の操作も会議の進行に支障ないようスムーズに行える。“会議を中断させない”ための機能と性能を実現した製品とは何かを追求した。」(パイオニアソリューションズ)

ユビキタス・ステーションは、導入時の複雑な配線はなく、電源、ネットワーク、マイク&スピーカを接続するだけでセッティングは完了する。また、会議の開始は、画面上に現れるプレゼンス機能で、呼び出したい相手をタッチパネルでクリック選択するだけですぐ始められる。そして、会議が始まってからも、指操作でワンクリックするだけで資料を参加者の画面上に表示させることができる。

「遠隔会議システム装置のために会議の進行や参加者の思考の流れが中断されないことが重要だと考えた。操作の簡単さはこういったツールの利活用の促進には重要なことだからだ。」(パイオニアソリューションズ)

ユビキタス・ステーションは、パイオニアグループ全社での運用実績や利用している社員からのフィードバックを踏まえて製品化されており、開発者の中には以前は遠隔会議とは関係のない部署で純粋に遠隔会議システムを使う立場だった人もいる。

「遠隔会議システムは、共有されるデータがなかなか画面に出てこないとか、操作が面倒であったことから、会議自体が中断されたりした経験がある。そのため遠隔会議システムは使えないという印象が強かった。しかし、その経

験が今回の開発にプラスに働いたと思う。なぜなら、そういった経験をベースに本当の遠隔会議システムのあり方をとことん社内で議論できたからだ。その結果、遠隔会議システムがより身近に感じられるシステムを開発できたと思っている。」(パイオニアソリューションズ)

ユビキタス・ステーションは、ユーザが操作する画面を直感的にわかりやすく、またシンプルにしているところが特長のひとつ。画面上のメニューパネルの大きさや位置まで使いやすさを追求して工夫されている。従来の同社製品のユーザからは、メニューパネルを小さく、簡素化することでデータが表示される画面上のスペースを可能な限り大きくしてほしいという要望もあったという。ディスプレイのサイズが限られているためその中で表示されるメニューパネルが大きすぎると、反対にデータ共有のウィンドウが小さくなったり、共有されているデータが一部隠れたりして見えづらくなったりすることがあるからだ。

この要望に対して、同社ではまず操作ボタンの数やデザイン、大きさなどを検討した。「機能が豊富になると、それに応じてボタン数も多くなる。そうなると逆に利便性が向上するよりも、操作のステップを増やすことにつながり、ユーザの会議への集中を削ぐことになる。これがユーザのストレスにつながる。」(パイオニアソリューションズ)

そのため、ユビキタス・ステーションのメニューパネルは、操作しやすいようにボタンパネルの大きさやデザインも考慮するとともに、よく使われる機能だけに操作ボタンと操作ステップの数を絞った。データを共有する際にも、赤色のボタンをワンクリックすることで開始できる簡単さを実現した。

これらの工夫によって、共有されているデータの表示スペースもより広く画面上にとれるようになったが、ユビキタス・ステーションは、同社が以前から販売していた Cyber Conference System EV(サイバーカンファレンスシステムEV)と比べ、ボタン数を極力減らした形になった。

次に、データ共有時の書き込みにおける、書き込み権限のやりとりのための操作を省いた点も特長のひとつだ。市場で提供されている製品の中には、遠隔会議システムのデー

タ共有において、ユーザAが書き込みを終わり、今度はBが書き込みを始める場合、Bへその権限を与えるための操作を行うことが必要な製品もある。「このやりとりのための操作が結構ユーザのストレスになることが多い。この操作を省くというのは、ユーザの思考の流れを止めないという観点からとても大事なことだと考えたので、自由に書き込みが行えるようになっている。」(パイオニアソリューションズ)

また、同社では、データ共有時のデータ送受信のタイムラグを軽減する技術「2段階送信方式」を搭載した。2段階送信方式とは、発表者の端末から参加者の端末へデータを2段階で送信する方法だ。1回目は、即座に画面上に表示できる程度に圧縮したデータを送信し、受信側でそれを画面上に表示する。

次に2回目は、フルデータをバックグラウンド送信側から送る。それを受信側で受けると、今度は画面上に既に表示されているデータを上書きしてフルデータに差し替える。それにより、フルデータを画面上に表示するといった仕組みだ。

この方式だと、送受信の手間は2回となるが、その分データ会議はすぐ始められるところがこの仕組みの特長だ。

CNAレポート・ジャパンの橋本が製品のデモを拝見させていただいたが、圧縮されたデータは、画面上に表示する際に解像度がフルデータに比べ低いが、データの内容を理解するには十分な解像度は得られていた。また2段階で送信するため、ファイルの容量に基本的に制限をなくすことが可能になったと同社は説明する。

「この2段階送信方式も、会議を中断させないための工夫のひとつだ。一般的なデータ共有では、そのファイルを完全送り終わるまでその資料の説明を始めることができなかったが、これでは会議が中断されユーザがこれでは使えないと判断する原因にもなっていた。この方式は、CADデータなどファイル容量が大きいデータにとくに有効だと思う。」(パイオニアソリューションズ)

パイオニアソリューションズによると、現状の遠隔会議シ

システムには、テレビ会議や Web 会議、電話会議などさまざまな製品があるが、それらの中での選択が難しいことや、導入や運用コスト、システムの操作が複雑である等の要因によって、遠隔会議システムの敷居を高くしていたという。

「ユビキタス・ステーションは、これらの導入時の課題を解決し、幅広いユーザや用途にアプローチができる製品だと考えている。当社としても今後この遠隔会議システム分野に力を入れていきたいと考えている。」(パイオニアソリューションズ)

ユビキタス・ステーションは、10月28日から30日まで東京ビックサイトで開催される ITpro EXPO 2009(主催:日経BP社)の同社ブースにて展示、デモが行われる予定。

### 日本 HP、PC 向けデスクトップビデオ会議ソリューション発売、ピアツーピアで4地点までの多地点

日本ビューレット・パカード株式会社(東京都千代田区)は、PC 向けデスクトップビデオ会議ソリューション「HP SkyRoom(エイチピースカイルーム)」を発表した。(9月28日)

同社で10月15日より販売開始する製品は、「HP SkyRoom ソフトウェア」、「HP Skyroom 専用ハードウェアキット(Web カメラとヘッドセットオプション)」、「HP SkyRoom デスクトップオーディオ(PCIe)キット(外部スピーカ、会議用マイクのセットオプション)」。オプションは2つ提供されるが、HP Skyroom 専用ハードウェアキットは HP Skyroom を使用するための必須オプションとなる。

また、10月中旬以降に日本 HP 昭島工場にて製造ワークステーション製品にソフトウェアを無償でバンドル販売する。対象機種は、「HP xw4600」、「HP Z400」、「HP Z600」、「HP Z800」(2009年10月現在)。

HP Skyroom は、企業の既存の LAN 環境において低コストで導入可能であるが、ファイアーウォールを越えた接続に関しては、プレスリリースによると将来的な対応を検討中という。

Skyroom は、1 拠点あたり最大解像度 960 x 720 ドット、15 フレーム/秒、4 地点までのピアツーピアによる多地点接続に対応する。

映像プロトコルは、H.264 と MPEG2 に対応(ユーザとシステム管理者が選択可能)。音声プロトコルは、MPEG をサポート。アコースティックエコーキャンセレーション対応。解像度は、最小の 320x240 から 960 x 720 までの5種類。ネットワークの状況や用途に応じて変更することが可能。帯域幅の要件としては、400Kbps 以上(SVGA ビデオは 1Mbps 以上)を推奨している。また通信時の AES 256 ビット暗号化もサポートされている。

データ共有には、同社独自の圧縮技術「HP テクノロジー」を採用。圧縮率が高く高速にエンコードできる点が特長。そのため 3D CAD 図面や動画など要領の大きいデータもストレスなく表示が行える。共有コンテンツの解像度は、最大 2,560 x 1,920 まで選択することができる。またフレームレートは、最大 24fps。

HP Skyroom のユーザーインターフェイスは、アイコンをクリックするだけでデスクトップ画面を会議出席者とリアルタイムに共有できるシンプルで直感的なインターフェイスを備えている。会議のスケジューリングは、HP Skyroom 同士もしくは、マイクロソフト Outlook を連携させることで会議設定が行える。Skyroom ソフトウェアの対応言語は、日本語、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、中国語(簡体字)。

メンバーの接続状況などを表示するためのプレゼンスプロトコルとしては、XMPP と Microsoft Office Communicator (OCS) SIMPLE をサポート。Jabber ベースのサーバ(Ejabberd、Google Talk、Jabber XCP)や「Microsoft Office Communicator」と連携して使用する。

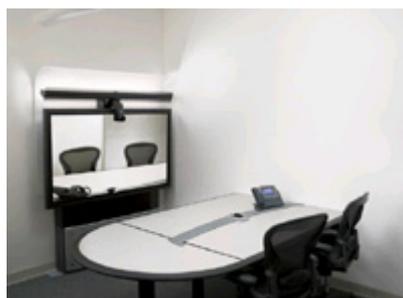
HP Skyroom の販売価格は、HP SkyRoom ソフトウェアが、17,000 円(ノードロック 1 ライセンス。税別、以下同)、HP Skyroom 専用ハードウェアキットが、10,000 円。HP SkyRoom デスクトップオーディオ(PCIe)キットは、28,000 円。90 日間電話テクニカルサポート(標準保証)、1 年間

電話テクニカルサポート Care Pack(有償保証)を提供する。

## 伊藤忠テクノソリューションズ、シスコシステムズ社テレプレゼンスシステムの販売を強化

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(東京都千代田区)は、シスコシステムズのテレプレゼンスシステムの販売を強化すると発表。(9月18日)

同社発表のプレスリリースによると、パンデミック対策や出張費削減などの目的で、テレビ会議の導入が増えており、導入を検討している企業では同じ空間にいるかのような臨場感が味わえる高品位テレビ会議システムが求められているが、実際のところ、本格導入前の自社環境での試用が難しく、またユーザビリティやコスト削減効果を導入前に正確に測定することができない状況にあるという。



そのため、同社では、シスコシステムズ社のテレプレゼンスシステムの臨場感を実際に体験してもらうプログラムを開始した。可搬

式の「Cisco TelePresence 1000(写真上:設置イメージ、伊藤忠テクノソリューションズ資料)」とタッチパネル式の電話機を各拠点に1台ずつ、合計2拠点分を、設置・設定作業を含めて30日間無償で提供する。ただし、拠点間の通信回線は含まれないが、シスコシステムズ社のテレプレゼンスシステムを使ったコスト削減効果やCO2排出量の削減効果を具体的な数値で示す簡易効果測定ツールも付属する。

また、10月9日には、「シスコテレプレゼンス特別オフィスツアー」を実施、また10月23日には「製造ソリューションフォーラム」を予定している。

## マイクロソフト、H.720p 対応 Web カメラとヘッドセットの2機種発表



### Microsoft LifeCam Cinema(マイクロソフト資料)

マイクロソフト株式会社(東京都渋谷区)は、「Microsoft LifeCam Cinema(マイクロソフト ライフカム シネマ)」と「Microsoft LifeChat LX-1000(マイクロソフト ライフチャット)」を10月2日より発売。

Microsoft LifeCam Cinema は、16:9のワイドシネマサイズ対応HD 720p(1280x720)ビデオセンサー搭載。また500万画素の静止画での撮影可能。ピント調節のための「メカニカル オート フォーカス機能」やノイズや残像を軽減する「クリアフレームテクノロジー(マイクロソフト独自技術)」で高画質の映像を実現している。本体は、アルミニウム製ボディで、ワイド広画角ガラス製レンズ、ノイズキャンセル機能内蔵デジタルマイク搭載。94g、約53mm(縦) x 約25mm(横) x 約98mm(高)。カメラの台座は、簡単に向きが変えられ、上下の振りに加え、360度回転する。

「Microsoft Office Communications Server(OCS)」の認証ロゴ製品。3年間製品保証付き。メーカー希望小売価格は、8,000円(税別)。

また Microsoft LifeCam Cinema を、沖電気工業のHD対応テレビ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」に接続できるHD対応Webカメラとして、沖電気工業株式会社(東京都港区)と共同で、HDビデオソリューションを提供していくという。

一方、Microsoft LifeChat LX-1000 は、オーバーヘッドタイプのベーシックなヘッドセット。手元でミュート機能や音量調節ができるコントローラーを備える。マイクは、ノイズキャンセリング機能に対応し、可動式のブームマイクで口元近くに合わせる事ができる。本体重量は、82g。約 16cm(縦) x 約 14.5cm(横) x 約 4.5cm(高)。2 年間の製品保証付き。メーカー希望小売価格は、2,400 円。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### 『出張費削減！ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日時:10月21日(水)14:00-15:00、16:00-17:00  
10月28日(水)14:00-15:00、16:00-17:00  
会場:NEC 情報システムズ 本社 20 階会議室  
(東京都港区芝3-8-2芝公園ファーストビル)  
主催:株式会社 NEC 情報システムズ  
詳細・申込:  
<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformmeeting/seminar.html>

#### 1時間でわかる「ウェブ会議システム」セミナー ～WEB 会議システム No.1 企業が教えるコスト削減セミナー～

日時:10月23日(金)15:00-16:30  
10月27日(火)15:00-16:30  
11月13日(金)15:00-16:30  
11月18日(水)15:00-16:30  
\*各開催日とも14:45受付開始。  
会場:TKP 東京駅ビジネスセンター 1号館  
主催:株式会社ブイキューブ  
詳細・申込:<https://vcube.smartseminar.jp/public/>

#### 『ビジュアルコミュニケーション活用による 企業内コミュニケーション向上』セミナー

日時:10月26日(月)14:00-17:00 (受付開始:13:30)  
会場:伊藤忠テクノソリューションズ  
霞が関オフィス セミナールーム(東京都千代田区)  
主催:伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
協賛:シスコシステムズ合同会社  
株式会社日立ハイテクノロジーズ  
詳細・申込:<http://spider.ctc-g.co.jp/web/fm/ms/2009092g>

#### IT pro Expo 2009

日時:10月28日(水)～10月30日(金)10:00～17:30  
会場:東京ビッグサイト 東4-5 展示ホール  
主催:日経BP社  
詳細・申込:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/index.html>  
\*会議システム系の出展企業あり。  
ビジュアルコミュニケーションセッション  
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2009/forum/list.html?c=t14>  
ポリコムジャパン(提供:プリンストンテクノロジー)、タンバーク  
(提供:メディアプラス)が講演。

#### RADVISION SCOPIA Elite 発表セミナー

東京会場:  
日時:11月5日(木)13:30～(開場:13:00)  
場所:TEPIA(財団法人機械産業事業団体)(東京都港区)  
大阪会場:  
日時:11月18日(水)13:30～(開場:13:00)  
場所:TURUYA ホール(つるやゴルフ本店8F)(大阪市中央区)  
主催:RADVISION ジャパン株式会社、VTV ジャパン株式会社  
詳細・申込:<http://www.vtv.co.jp/seminar/0911elite/index.html>

#### 国土交通省主催<大阪>

「会社を元気にするテレワークセミナー2009」  
～ワークライフバランス・事業再構築からパンデミック対策まで～  
日時:2009年11月20日(金)13:30～16:30  
会場:KKR ホテル大阪(大阪市中央区)  
主催:国土交通省 都市・地域整備局  
都市政策課広域都市圏整備室  
事務局:株式会社情報通信総合研究所  
詳細・申込:<http://www.icr.co.jp/telework/>

### <海外>

#### VoiceCon San Francisco 2009

日時:11月2日(月)～5日(木)  
会場:米国サンフランシスコ MOSCONE North Convention Center  
主催:United Business Media company  
詳細・申込:<http://www.voicecon.com/sanfrancisco/>  
\*Enterprise 2.0 Conference も同会場にて開催。

#### Interop New York 2009

日時:11月16日(月)～20日(金)  
会場:米国ニューヨーク Jacob Javits Convention Center  
主催:United Business Media company  
詳細・申込:<http://www.interop.com/newyork/>

### 編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。  
シスコシステムズが、タンバーク社を30億USDで買収するという大きなニュースが海外から入っていますが次号記事を掲載します。  
(橋本 啓介)